

心が育つ町

= 2 =

「二家庭一ボランティア」和町を思う心「失敗した実践ミニフォーラムで発表ら違う方法を考える」「あされた実践内容について紹介します。

美濃加茂市立三和小学校

子どもたちは、地域の方

では「ホタルの保護活動」の実践を35年間も続けています。カワニナの養殖から始め、ホタルがすめるきれいな川にする活動です。美濃加茂市三和町は、地域のH氏の指導のもと、地域の方、保護者、子どもたちの懸命な努力が続けられ、今ではホタルの町として有名です。H氏は「ふるさとを大切に誇りを持つ」三

一家庭一ボランティア②

35年続くホタルの保護



を觀賞し、楽しんでま

子どもたちは「来てくれた人の感動の声を聞いて、とてもうれしい。やっていてよかった」と話していました。活動に喜びを体感し、郷土を愛する「心が育つ町」ですね。

生徒は「地域の人と共に活動することによって、仕事の仕方や人との関わり方を知ることができて充実感がある」「コミュニケーションが深まって楽しい」「求められて活動ができるので、存在感や満足感がありうれしい」「人の役に立っていることが気持ちいい」などと実感を語っています。県内のほとんどの高校で、こうしたMSリーダーズを核としたボランティア活動が行われています。生徒の主体的な活動は地域の宝です。まさに「心が育つ町」ですね。

可児工業高等学校では、MSリーダーズを中心にさまざまな活動をしています。あいさつ、清掃、福祉活動など生徒が率先してボランティアを行っています。特に、保育園交流での紙芝居の実演、地域の祭りへの参加、福祉施設との交流、ゴミの分別、高齢者への暑中見舞い、産業フェアや環境フェアへの協力、「御嵩宿」への協力など、地域のために積極的な実践を続

（平松清美 県道徳教育振興会議副会長、挿絵・清水明彦 県教育委員会教育研修課課長補佐）